

- ソフトバンクのセット割引「おうち割」について、同社からデータ提供の協力を得て、「おうち割」による移動通信1回線当たり割引額をFTTH1回線ごとの割引として割引総額帰属テストを実施したところ、下表のとおり、卸料金にISP原価を加えたもの※1を割引後のFTTH利用者料金が上回るという結果が得られた。

	戸建	マンション
割引総額帰属後のFTTH平均利用者料金		
(参考)卸料金※1		

※1:ソフトバンクのFTTHはISP一体型のためISP原価もコストとして考慮する必要があるが、ソフトバンクからはISP原価が総務省限りとして提供された。そのため、卸料金にISP原価を加えたものを上表の利用者料金平均額が上回ることは、総務省において確認した。

- ただ、「おうち割」は、1回線のFTTHを家族で共同利用する場合に家族全員それぞれの移動通信回線に適用される※2ため、本来は、家族全員の移動通信の割引額(複数回線の総割引額)を家族で共同利用するFTTH1回線の割引として計算を行うことが、割引総額帰属テストでは、より望ましいものであるが、データの制約により現時点ではそうしたテストまで行うことができていない。

※2:NTTドコモのセット割引「光セット割」は、家族の場合でもその中の移動通信1回線のみ適用。

- いずれにせよ、ソフトバンクのFTTHの最近の契約数増加率は他の卸先事業者合計の契約数増加率を下回っている状況※3であり、その観点からは、現時点で直ちにソフトバンクのセット割引が不当な競争を引き起こしているとは認められないと考えられるが、今後とも、不当な競争を引き起こされていないかという観点から、FTTH市場における競争の状況及びMNOの動向を注視する必要がある。

【※3:FTTH契約数増加率】

平成29年7～9月
平成29年10～12月
平成30年1～3月